

# 第3回別府市温泉マネジメント計画策定検討委員会 議事要旨

日時：令和5年11月28日（火）10:00～12:00

場所：別府市上下水道局 3階大会議室

## 1. 開会

## 2. 議事

(1) 第2回までの意見の整理、調査結果及び今後の対応

(2) 第3回検討委員会の論点についての意見交換

### <事務局説明>

- 第2回までの意見の整理、調査結果及び今後の対応について説明

### <主な意見>

- 論点を整理するために、地下の温泉資源を守ることと未利用湯の利活用を分けて議論を進める必要があるが、最終的には両方の観点から見て齟齬がないように総合的に議論する必要がある。

### <事務局説明>

- 地下資源の保護（下流側でのモニタリングの拡充・モニタリングデータの活用方法）について説明
- 未利用湯の定義及び未利用湯の利活用（調査結果報告・鉄輪地区をモデル地区としたハード対策の提案）について説明
- 共同温泉等の現状を踏まえた取組み（維持管理・運営持続・地域の機運づくり）について説明

### <主な意見>

- 理念条例化や温泉資源管理の地元参加の検討、地域学習との連携といった「地域の機運づくり」については、地下資源や未利用湯の活用にも関わることであるため、共同温泉の考え方の中で議論するのではなく、全体の課題として整理すべきである。
- 地域参加の仕組みづくりの一環として、温泉を大切に活動への表彰（アワード）があると良いと考える。
- 「せーので測ろう！別府市全域温泉一斉調査」は地域の機運づくりのために素晴らしい取組みであると思うが、市民に知られていないため、広く周知する必要がある。
- 未利用湯を完全になくすことは困難であると考えます。
- 地熱発電で使用される湯量が適切かどうかを調べる必要がある。
- 温泉の掘削申請については、県が審査のうえ許可を出しているが、許可された後、適切に遵守されているのか疑問である。
- 共同温泉等の未利用湯の調査も重要であるが、温泉水の排出量の多い地熱発電の問題を含めて議論するべきではないか。
- モデル地区での取組みに期待しているため、着々と進めてほしい。
- 個別にセンサーをつけて計測することで、正確に未利用湯の把握ができると思うため、そこを目指して徐々に増やしていく進め方がよいのではないかと。

- 地熱発電所では、およそ 500～700 ℓ/min のお湯が捨てられているという現状がある。
- 使用していない地熱発電の泉源を止めることが地下資源の保護に繋がると考える。
- 県が保管している地熱発電のモニタリング結果を公表することはできないのか。
- 大分県環境審議会温泉部会内規で定める審査基準の見直しの中で、掘削後の定期的な報告の義務付けも検討するべきではないか。
- 温泉の所有者や共同温泉を運営している人といった現場の声を聞いたうえで、実態に即した計画にするべきである。
- 後継者不足、利用者の減少等、共同温泉を取り巻く問題は多くあり、経営は年々厳しくなっているため、そのことも検討していく必要がある。
- 湯量や温度の低下という声を耳にする中で、総合的な学習など、市民の方に知っていただくための機会を増やす必要があるのではないか。
- 温泉に詳しい市民がいることが別府の強みであるため、そうした方の知見を活かした取組みができればよいのではないか。

### 3. 閉会

以上